

「辻」と堀割

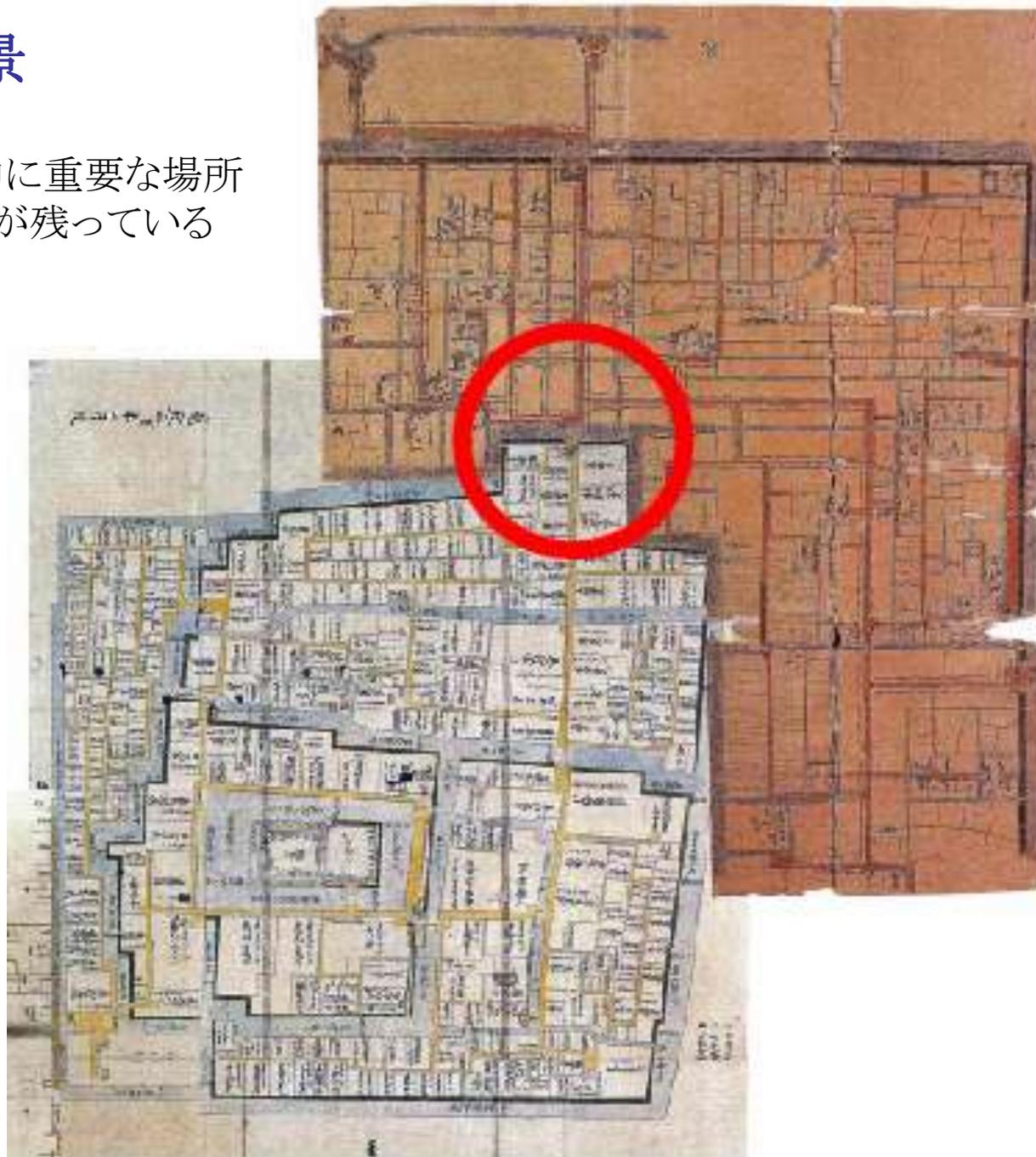
暗渠となっている堀割

- 商店街のバックヤード
- 駐車の利用が少ない
- 住民の人の動線となっている



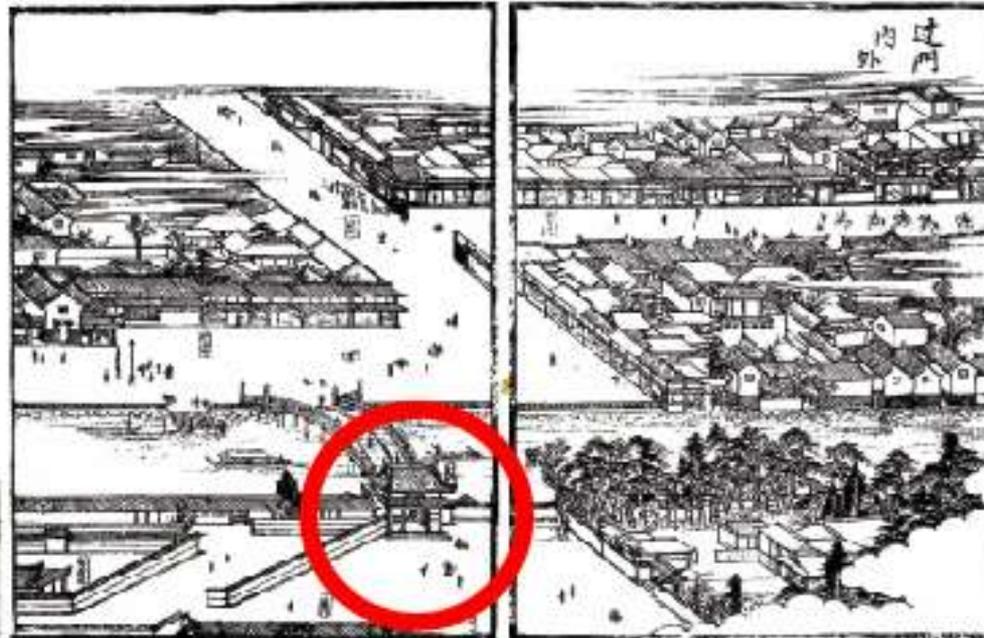
歴史的背景

- 辻という歴史的に重要な場所
- 町人町の間口が残っている



辻の特性

- ・「境界」・・・町人町と武家地、観光と生活の境界
- ・「集まる」・・・もの、人、情報



◀ ▲ 辻門橋

城へ入る咽喉にして昼夜往来絶るひまなし。此所にてあらためて旅人を入ることを許ず。辻の門は城下町中央の検問所の門のことである。この橋の西に糞汲物という公衆用の荷揚場があった。現在の柳川市片平町昭和堂西から伝習館校庭にかけていた。

提案

- ・暗渠となった堀割を開渠にし、堀割ネットワークを再生する
- ・「辻」と堀割との関わりの中で「体感する」ことを重視したまちづくり提案

シナリオ

乗舟場を作り、観光拠点をつくる

「辻」という場所の特性を復活させる

辻町の特性を現在の形で体感する

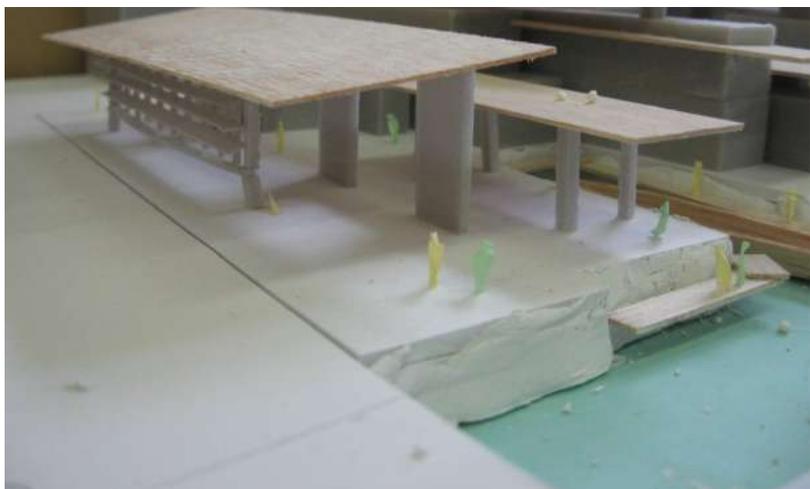
辻町の場所性を生かした、堀割、観光、生活が接する場所を提案する

ゾーニング



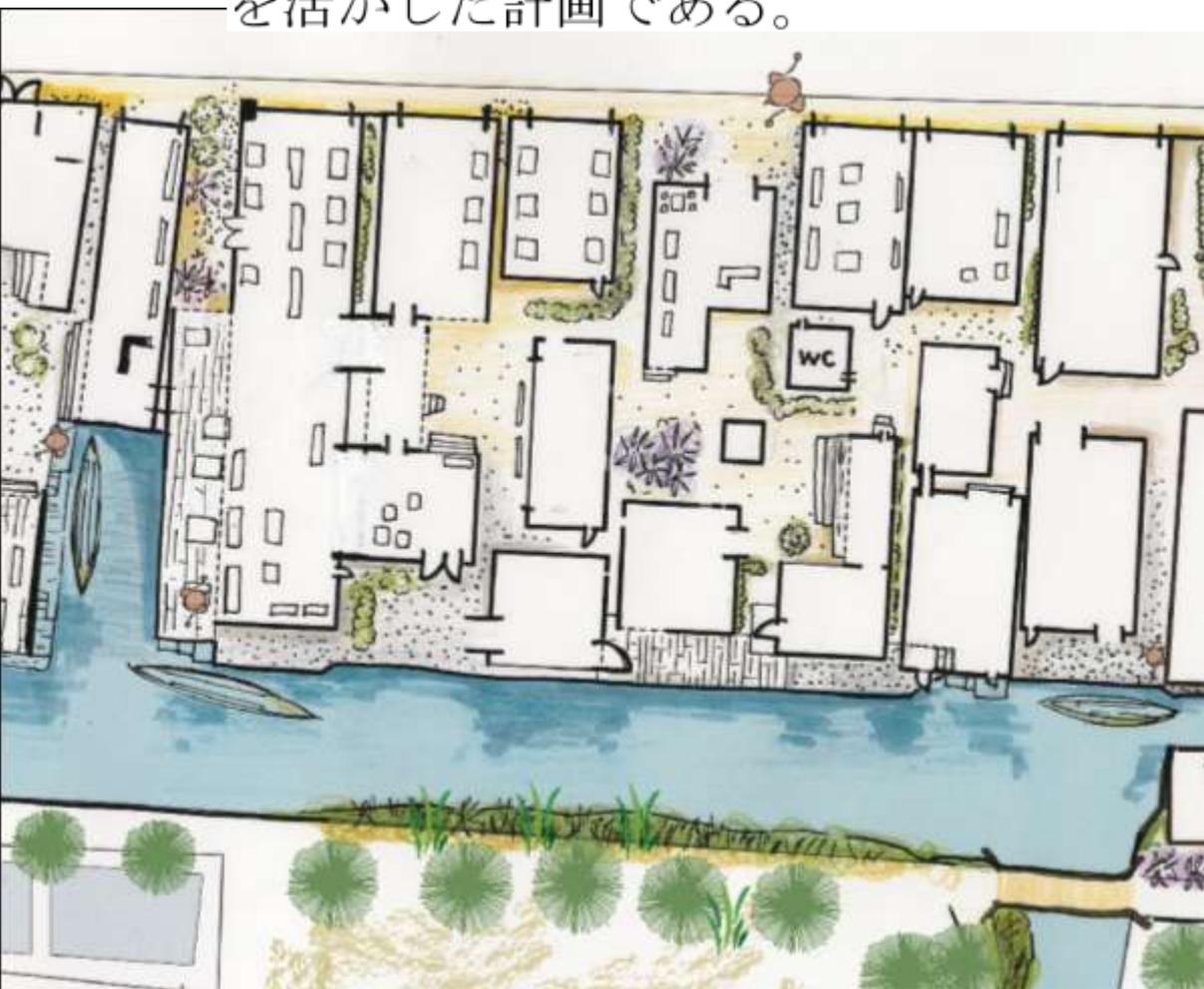
①情報ゾーン

辻門や京町、柳河地区などの写真や資料を展示し、歴史を体感してもらう。



②商業ゾーン

商店街としての機能と舟乗場のある観光地の商店としての機能であり、住民、観光客にとってお互い影響し合う場所となる。回遊性、視点場、水際のデザインなどこの地域の特性を活かした計画である。



③宿泊体感ゾーン

柳川に来る観光客の多くが日帰りである。日帰りでは、体験できない柳川の、堀割の魅力を活かして、体感する。



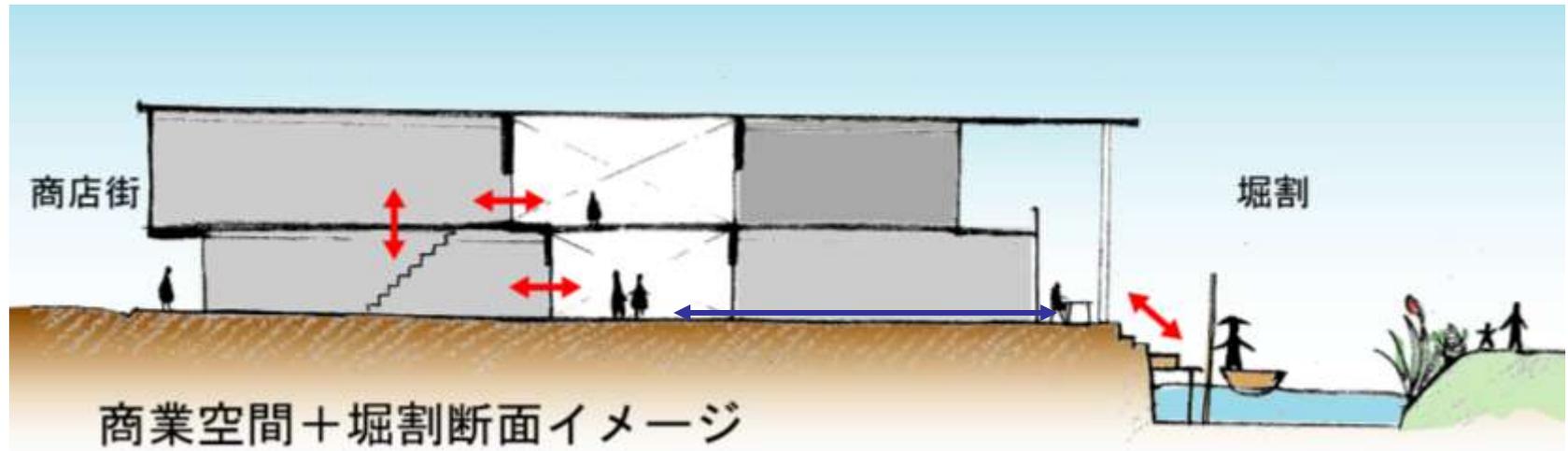
④武家屋敷跡ゾーン

かつて武家屋敷があった場所。堀は土塀で緑化され、対面から借景ともなるオープンスペースであり、堀を見渡す視点場ともなる。



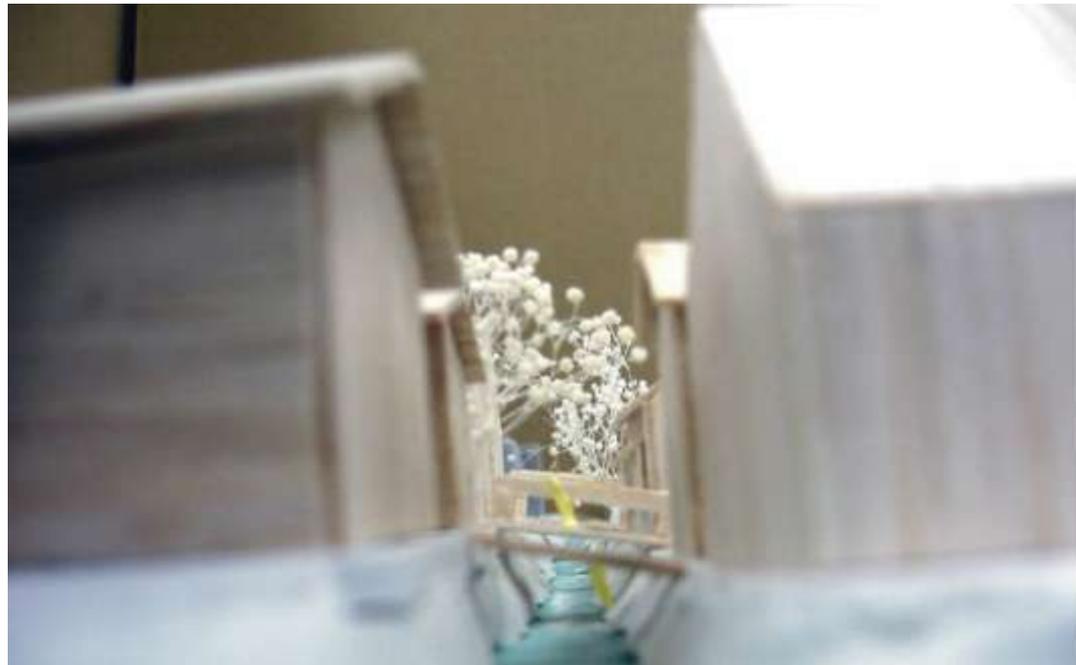
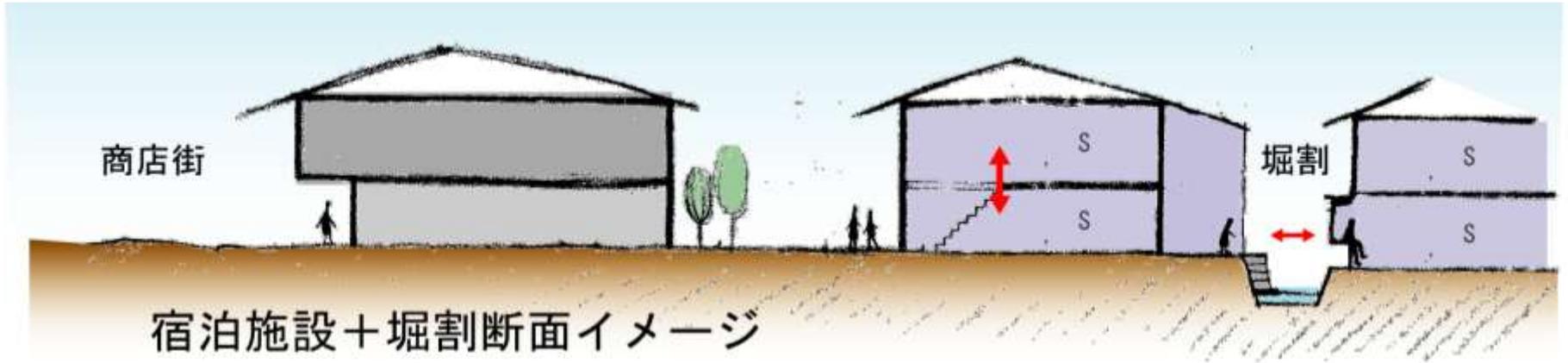
商業空間と堀割

店舗から堀を感じる



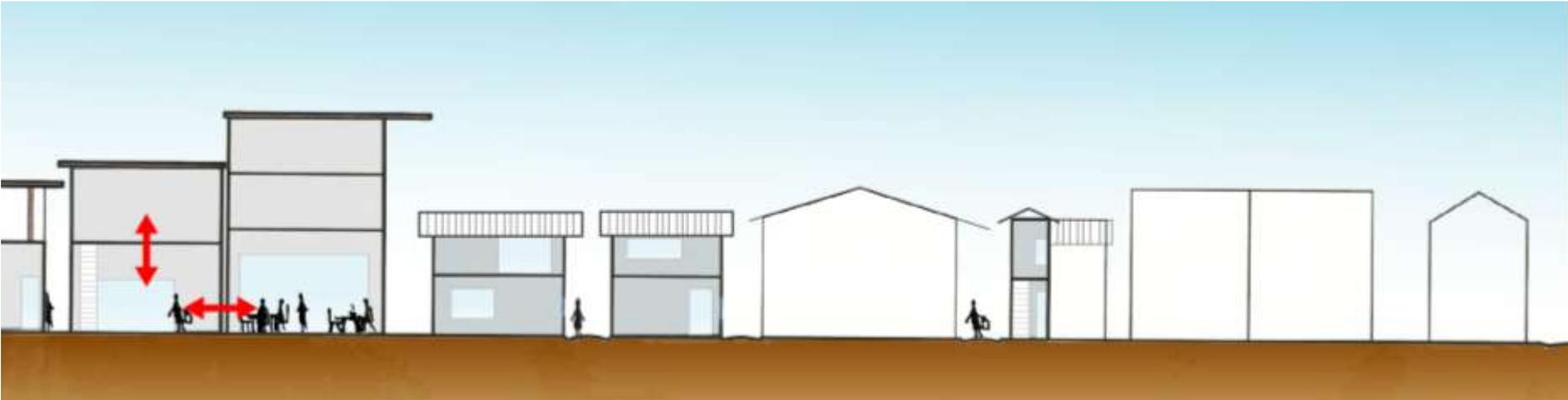
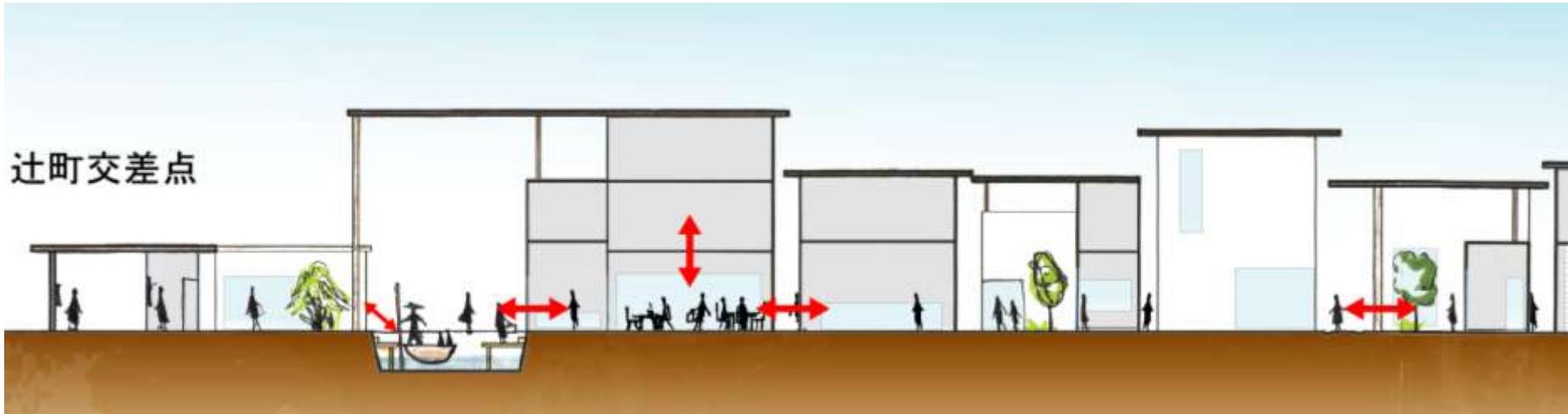
体感型宿泊施設と堀割

柳川の堀と係わる生活を体感する



商業空間と間口

昔の町割りの間口を残し、屋根が堀にまで張り出す



結果として…

堀割ネットワークと、地区の固有性を関係させ、魅力ある堀割を作り出すことができる